

## 51. 天草・富岡半島の地質 —とくに岩脈群—

地 域 天草下島・富岡半島 南—南西海岸

交 通 九州商船 茂木—富岡

地形図 口之津（1/50,000）

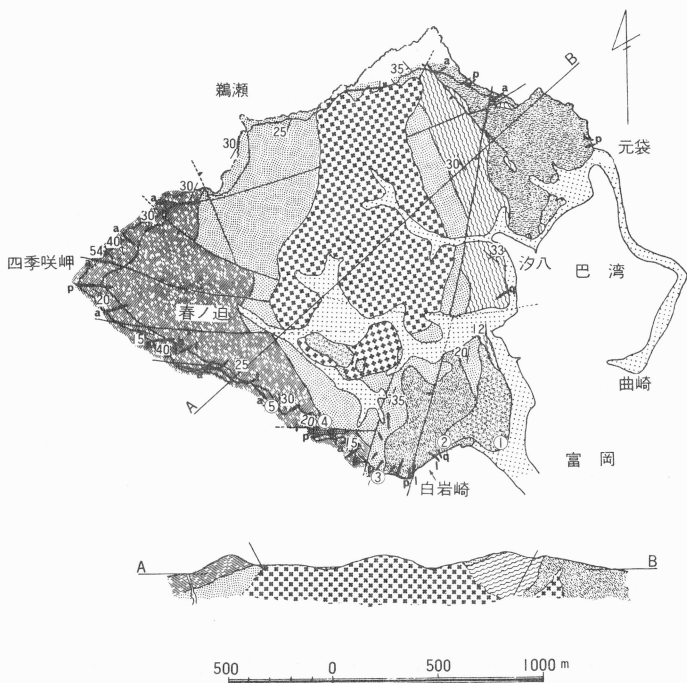
茂木港より汽船で約1時間10分で富岡港に着く。1日に3往復の便があるので長崎からは充分日帰りできる行程にあり、頼山陽が詠った天草灘を望みながら、海中公園に指定されている富岡半島の変化に富む地質巡検もまた一興であろう。

岩質の変化に富む南—南西海岸のコースを歩いてみよう。

栈橋に上陸するとすぐバスの待合所の広場があるが、ここから西海岸に出るのに数分とはかからない。その途中に低い台地（10～15m）をなして①の洪積層が小範囲に分布している。れき質は円磨された流紋岩や砂岩・泥岩のホルンフェルスれきが優勢で、直径5cm大のものが多く、中には人頭大の巨れきも含まれている。

老人ホーム・鎮導寺の前を通り陶石採石場に通ずる道を途中から海岸に出る。②の流紋岩がかなり広く露出している。この流紋岩はこの地域の火成岩中で最も古いものと考えられるもので、白色細粒であるが、後からの熱変質作用を受けて微細な黒い電気石の結晶の集合体ができている。地質図の矢印の付近に多く見られ、一見、豆入り大福餅のようで、10～15mmの斑状・掌状をなしている。

この流紋岩中にも数本の岩脈が見られるが、この南—南西海岸一帯は岩脈の宝庫といえる程多数の岩脈が見られる。貫入の末端部とも思われるような切れ切れに複雑な形を示すもの、幅が数cmで地質図に示されないような小岩脈、城壁を思わせるように突出して幅数m、長さ数100mにおよぶものなど種々の形のものが見られて



Index 凡例

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| ① Alluvium 沖積層         |                     |
| ② Diluvium 洪積層         |                     |
| ③ Granodiorite 花崗せん緑岩  |                     |
| ④ Basalt 玄武岩           |                     |
| ⑤ Lamprophyre こう斑岩     |                     |
| ⑥ Porphyrite 玢岩        |                     |
| ⑦ Andesite 安山岩         |                     |
| ⑧ Q-Porphry 石英斑岩       |                     |
| ⑨ Rhyolite 流紋岩         |                     |
| ⑩ Sakasegawa F<br>坂瀬川層 | } 古第三系<br>Paleogene |
| ⑪ Toishi F<br>砥石層      |                     |
| ⑫ Kyoragi F<br>教良木層    |                     |

熊本県天草郡，下島，富岡半島地質図  
(高橋良平)

実に楽しい。岩質はこう斑岩，玢岩，石英斑岩，安山岩，玄武岩などであるが，いずれも熱変質作用を受けているところから，半島中央部に最後に貫入したと考えられている細粒の花こうせん緑岩の影響を受けているのであろう。

白岩崎を過ぎて西に約 200m 程進んだ付近から，③の古第三系の砥石層とその上位の坂瀬川層の黑色けつ岩がホ

ルンフェルス化して、硬くち密になった岩石が、最西端の四季咲岬一帯にかけて広く分布している。このホルンフェルスは非常に硬いので、ハンマーでたたくとき十分気をつけないとケガをすることがある。

④の石英斑岩には両錐形の高型石英が斑晶として含まれているのが肉眼でよく観察できる。この付近はかなり急峻な海食崖となっていて歩きにくい。また崖を回った付近の砂岩中に泥岩が同時れきとして含まれている。⑤の付近は、ルート中の最難所でホルンフェルスの数mの崖越えである。もっとも最近、春の迫海岸付近まで海中公園の遊歩道ができていたので、ロッククライミングが苦手な人は、その山越え遊歩道を通ると楽である。しかしあまり観察はできない。

春の迫海岸の遊歩道の終点付近では、坂瀬川層中にレンズ状にはさまれた石炭がときどき見られる。また褐鉄鉱の団塊（ノジュール）や砂管（サンドパイプ）がかなり含まれている。最西端の四季咲岬付近では5～15cm単層構成の細れき岩—砂岩—けつ岩のサイクロテムが数サイクル認められ、砂岩中にはかなりの炭質物が含まれている。

富岡半島の南—西海岸から四季咲岬を回って約300m付近から半島内部の道を通り、春の迫部落を経て袋池に至るコースは1日の巡検コースとしては最適であろう。ただし海岸のコースであるから、大潮のときをねらった方がよく観察できる。

なお、時間があれば、富岡城跡に登ると富岡半島の陸繋砂州けいがよく眺められる。また汐入海岸の志岐炭鉱産の無煙炭積出し場を見学するのもおもしろい。ここの無煙炭は第三紀地殻変動や火成岩の貫入によって炭化作用が進んで生成したもので、粉化しやすいキラ炭と、一種の天然コークスになった六角柱状のカワラケ炭が見られる。

（石川直衛）